

令和8年度 音楽科 シラバス

1 教科の目標

表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を次の通り育成することを目指す。

- (1) 曲想と音楽の構成や背景などとの関わりおよび音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。
- (2) 音楽表現を創意工夫することや、音楽のよさや美しさを味わって聴くことができるようにする。
- (3) 音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽を愛好する心情を育むとともに、音楽に対する感性を豊かにし、音楽に親しんでいく態度を養い、豊かな情操を培う。

2 三年間の指導計画の概要

授業時数 1年生 年間45時間 2・3年生 年間35時間

月	第1学年	第2学年	第3学年
4	【表現】歌唱「校歌」 合唱「その先へ」	【表現】「道を歩けば」 【鑑賞】交響曲「交響曲5番」 (参考曲「フーガ短調」)	【表現】日本歌曲「花」 * 適宜教材を選択
5	【表現】創作活動 【鑑賞】和声と創意の試み第一集 「四季～春」	【表現】日本歌曲「夏の思い出」 (参考曲「荒城の月」「夏は来ぬ」)	【表現】器楽合奏「箏」
6	【表現】「主人は冷たい土の中に」 【表現】日本歌曲「浜辺の歌」	【鑑賞】歌舞伎「勧進帳」	【鑑賞】交響詩「ブルタバ」 (参考曲 交響詩「展覧会の絵」)
7	「赤とんぼ」 【鑑賞】日本の民謡 (アジアの諸民族の音楽) 【表現】混声合唱曲	オペラ「アイーダ」 【表現】混声合唱曲 * 適宜教材を選択	【表現】創作活動Ⅰ 【表現】混声合唱曲
8	【表現】夏休み宿題発表	【表現】夏休み宿題発表	【表現】夏休み宿題発表
9			
10			【表現】夏休み宿題発表
11	【鑑賞】歌曲「魔王」 【鑑賞】雅楽「越天楽」	【鑑賞】文楽「新版歌祭文」 【表現】器楽実習「箏」	【鑑賞】能、狂言
12	【鑑賞】箏曲「六段の調」	【表現】創作活動	【表現】創作活動Ⅱ
1	【表現】器楽実習「箏」		ルールを守って音楽を楽しもう
2			【表現】儀式音楽の役割
3	ルールを守って音楽を楽しもう 【表現】儀式音楽の役割 * 卒業式・入学式歌	【表現】儀式音楽の役割 * 卒業式・入学式歌	* 卒業式・入学式歌
上記以外でも「声の出し方」「指揮」「音楽の役割」「音楽の要素」「音楽の約束」など、また、他の楽曲も必要に応じて授業に組み込みながら学習を進めていきます。			

3 授業に向けて

- ① 音楽は表現の授業です。学習した知識を生かし積極的に表現してください。
- ② インフルエンザ等の感染リスクを減らすために授業の場所を分散する場合がありますが、気持ちをゆるめることなくしっかり取り組んでください。
- ③ 持ち物は必ず音楽バッグを用意し、全ての持ち物を入れ、音楽室に持参してください。これらは、ロッカーに入れておくことを許可していますが自分で管理してください。持ち物は次の通りです。
 - ・教科書…学年があがっても、捨てずに卒業までとっておきましょう。振り返りに役立ちます。
 - ・合唱曲集…1年次に、公費で購入し配布します。3年間使用するので大事に扱きましょう。
 - ・筆記用具…ふだん使用しているもの。プリントを貼るのり(テープ)があると便利。
 - ・A4版ノート(一年生は最初の一冊目は一括注文します。二冊目以降は自分で用意してください。)
 - ・パソコン…毎回の授業では使いませんが、使用する場合は、前の日に充電をしっかりとってきてください。

4 家庭学習の方法

- ・授業で取り組んだ内容をその日のうちに振り返っておくと良いです。
- ・今まで学習した内容をベースに新しい内容が加わるので、復習をしっかり行ってください。
- ・実技も授業だけでは上達しないので、家で練習しましょう。音が出せない、楽器がないという場合でも、ボリュームをさげた練習や運指の練習など、やれることを見つけて取り組みましょう。

5 評価の観点と項目例

(1) 知識・技能

- ・音楽固有の雰囲気や表情、味わいなどを感じ取りながら、自己のイメージや感情と音楽の構造や背景などとの関わりをとらえて理解しているか。
- ・人々の暮らしとともに音楽文化があり、そのことによって様々な特徴を持つ音楽が存在していることを理解しているか。
- ・音楽を形作っている要素などの働きについて実感を伴いながら理解し、表現や鑑賞などに生かしているか。
- ・音楽に関する歴史や文化的意義を、表現や鑑賞の活動を通して自己との関わりの中で理解しているか。
- ・創意工夫の課程でもった音楽表現に対する思いや意図に応じて、その思いや意図を音楽で表現する際に自ら活用できる技能を習得しているか。

(2) 思考・判断・表現

- ・音や音楽に対する自己のイメージを膨らませたり、他所のイメージに共感したりして音楽を形作っている要素の働かせ方などを試行錯誤しながら、表したい音楽表現について考え、どのように音楽で表現するかについて思いや意図を持って表現しているか。
- ・曲想を感じ取りながら、音や音楽によって換気された自己のイメージや感情を、音楽の構造や背景などに関わらせて捉え直し、その音楽の意味や価値などについて自分なりに評価しながら聴いているか。

(3) 主体的に学習に取り組む態度

- ・他者と一緒に歌ったり、演奏したり、音楽を聴いたり、また、今まで知らなかった音楽に出会ったり、自分の演奏が聴き手に評価されたり、音楽に対する感じ方が人によって多様であることを認識したりなど、主体的かつ協働的に学習に取り組んでいるか。

【評価材料】授業に取り組む姿勢、実技テスト、ワークシート、提出物、発表、定期考査等